

兵庫県産 *Lethaeus* 属ナガカメムシ 3種の分布について

高橋 寿郎

チャイロナガカメムシ属 *Lethaeus* はナガカメムシ亜科 *Aphaninae* のチャイロナガカメムシ族 *Lethaeini* の一属で筆者の知見では日本から現在6種が知られ、本州に産するのはその内4種である。兵庫県下には3種が分布している。そのうちで2種は大変多くいる種である。他の本州産1種も箕面原産だけに県下にも分布しているのではないかと調べているのだが今の所見つかっていない。

最近若干の生態状況もわかって来たので此処に分布を中心に県下の現況を報告しておきたい。

尚この属に就いては宮武睦夫氏、日高輝展氏の夫々詳しい分類学的報文がある（あげは、*№* 6, P. 10-15, Fig. 1-5, 1958., *Mushi*, Vol. 36, *№* 6:77-83, Fig. 1-7, 1962）。

兵庫県産3種の識別は上記報文に詳しいので形態に関する記述は一切省略させて頂いた。

○ *Lethaeua lewisi* Distant, 1883 フタモンチャイロナガカメムシ
本種は G. Lewis 氏の長崎の採集品によって記載されたものである（*Trans. Ent. Soc. London*, 4:440, pl. 20, f. 7, 1883）。

分布は本州、四国、九州、奄美大島、琉球となっていて海外では台湾、印度が知られている。本州では南岸線以南にだけ分布するどちらかと云えば南方系の種のようにあり県下の産も淡路島に記録があるだけである。

北隆館の日本昆虫図鑑（改定版，1950），P. 229, f. 589 に本種として図示されているのは次の *L. dallasi* Scott のことであるとのこと。

兵庫県の氷上郡の記録〔山本，1954，1958〕があるがこの北隆館の図鑑にて同定されたのであろうと思われ（分布からして）*L. dallasi* と考えられる。分布しているとすれば瀬戸内に面した海岸線近くの地域にいそうに思われる。

産地：三原郡福良〔宮武，1973〕* 氷上郡〔山本，1954，1958〕〔？〕。

○ *Lethaeus dallasi* Scott, 1874 チャイロナガカメムシ

本種は G. Lewis 氏の採集品に基いて Scott 氏が記載したものである（*Ann. Mag.*

*産地のところで〔 〕の中のものは文献からの引用，（ ）の中のものは筆者所有標本である。

Nat. Hist. (4) 14: 438-439, 1874). 産地は明記されていない。本種は北海道、本州、四国、九州、琉球と広く分布し、宮武氏は朝鮮にも産すると記しておられる。県下でも大変広く分布し、また普通に採集出来る種である。神戸市内では8月下旬から9月上旬に最も多く見られる。日高氏は食草としてヤシヤブシ、ヒサカキ、ハマヒサカキを挙げておられる。神戸の鳥原ではクサギ、ミズキから採集される場合が多い。運動はかなり活発で網に入っても忙しく動きまわり飛び立とうとする。つかまえるのに慣れが必要である。

宮武氏によると松山市付近で度々灯火に飛来するとのことであるが神戸付近ではそのような経験はない。但し加西市畑のものは中国縦貫道路ぞいのレストランの電燈に飛来したものである。

本種は前に書いたように江崎博士が日本昆虫図鑑に *L. lewisi* Distant として図説しておられる他、宮武氏の図説(1958)、日高氏による原色の図説(1965)がそれぞれある。

産地：津名郡東浦町野田〔川沢, 1974〕。洲本市山武牧場〔堀田, 1978〕。川西市見野、大和〔仲田, 1978〕。能勢妙見山(1♀, 30-VII-1982)。神戸市鳥原(1♀, 20-VII-1963, 1♂, 7-VII-1968, 1♀, 17-VIII-1969, 1♀, 20-IX-1973, 1♀, 10-VIII-1974, 1♀, 13-VI-1982, 1♀, 21-VI-1982, 1♂, 1-VII-1982, 1♂, 11-VIII-1982, 1♂, 5-VIII-1982, 2♀, 23-VIII-1982, 4♀, 30-VIII-1982, 1♂, 2♀, 1-IX-1982, 1♀, 2-IX-1982, 1♂, 3-IX-1982)。下谷上(2♂, 2♀, 23-VIII-1979)。芦谷溪谷(1♂, 13-IX-1982)。加西市畑(3♂, 1♀, 29-VI-1974, 1♂, 1♀, 13-VII-1974)。赤穂市天和(1♂, 25-IX-1974, 1♀, 6-X-1974)。宍粟郡音水(1♀, 8-IX-1942)。

○ *Lethaeus assamensis* Distant, 1901 オオチャイロナガカメムシ

本種は印度アッサム地方(Naga, Hills)から記載された種である(Ann. Mag. Nat. Hist. (7) 8: 507, 1901)。同一著者によってFauna of British India, Rhynchota, Vol. IIに図説がある(余り図は良くない)(P. 87-88, f. 67, 1904)。

日本からの記録は大川氏の三重県下のものが正式には初めてになるのだろうか(ひらくら, 1957, 長谷川氏同定)。

本州北部、関東以西、四国、九州に分布しているとある。宮武氏は松山で6月下旬から9月にかけて灯火に飛来するがチャイロナガカメムシより出現が早く個体数も前種より少いと記録しておられる(1958)。

日高氏も本州での記録は伯耆大山と和歌山県の二ヶ所しか掲げられていない(1962)。

ところでこの種は兵庫県下からは今迄全く記録が無かった種であるが神戸市内鳥原に非常に多くいる。この地にこの位いるのだから恐らく他の県下の産地も多くあるのであろうと思うのだが今の所全く知られていない。いる場所は側溝で一方が崖(土並びに若干コンクリートで土止めをしてある)で反対側は道路になっている(舗装してある)。この道路の側溝にいるのであるが食草らしきものが近くに全く見当たらない。かなり注意しているのであるが何を食べているのかわからない。クズが多くあるがこの種の食草の報告は今の所知らない。側溝には落葉のたまっている所も割合ある。大変敏感で側溝にいるのを手でつかまえようと近づけるとかなり前に察知して逸早く逃げる。相当のスピードであるしなかには翅を出して飛び去るものもある。

出現期はデータで御覧のごとく8月が一番多くいるようで6月から見られ9月一杯でも野外で見られる。いずれの場合も単独の個体ばかり見られて集っているような状況のものを見ていない。

交尾状況その他も今の所見ていない。今後共観察を続けたいと考えている。

産地：神戸市鳥原(1♀, 27-VII-1969, 1♀, 24-IX-1973, 1♀, 27-VII-1974, 1♀, 20-VII-1975, 1♂, 1♀, 27-VII-1975, 1♀, 12-VI-1976, 1♂, 8-VIII-1976, 1♀, 15-IX-1977, 1♂, 1-VII-1978, 1♀, 2-IX-1978, 3♀♀, 3-IX-1978, 1♀, 22-VI-1979, 1♂, 22-VII-1980, 1♂, 5-VII-1982, 1♀, 11-VII-1982, 1♂, 1♀, 22-VII-1982, 1♀, 28-VII-1982, 3♂, 3♀, 5-VIII-1982, 1♂, 3♀, 8-VIII-1982, 1♀, 10-VIII-1982, 1♀, 12-VIII-1982, 1♂, 1♀, 23-VIII-1982, 2♂, 8♀, 24-VIII-1982, 4♀, 25-VIII-1982, 1♂, 4♀, 26-VIII-1982, 2♀, 30-VIII-1982, 2♀, 3-IX-1982)。

初めに一寸記したように本州産には他にもう1種が知られている。しかもそれは故江崎悌三博士が箕面で採集された1♀(18-VII-1915)の標本によって記載された *L.*

minoensis Hidaka (Mushi, Vol. 36, №6:80, Fig. 7, 1962)である。その後この種の記録を筆者は知らないが少なくとも兵庫県に接している地点での記録種なので兵庫県からも発見出来るのではないかと注意しているが、今の所まだ見つかっていない。

以上県下産3種の *Lethaeus* 属の分布に就いて報告させて頂いたが3種共県の中央部から北でほとんど産出の報告が無い。3種共南方系のナガカメムシの故なるのか或は充分の調査が出来ていないためか、どうも後者の意味のように思うのだが。

(XI-1982)